

再整備後の光が丘公民館・ 新築児童館等の整備の方向性について

Ⅲ. 基本方針等

【基本理念】

光が丘ランドマーク

～ 子ども達がつくり 活躍し ずっと続いていく
共にささえあい みんなが笑顔になれる 陽だまりのような場所 ～

【基本方針】

- 方針1 地域とともに子ども・若者を育む拠点として活用します
- 方針2 地域の魅力やゆるやかな繋がりを大切にします
- 方針3 災害時の拠点として活用します
- 方針4 旧青葉小学校のストックを大切にします
- 方針5 時代に即したやさしい施設にリニューアルします

【導入機能】

- ① 陽光園及び障害者更生相談所の機能
- ② 保育園の機能
- ③ 市民活動機能
- ④ 災害機能

【敷地利用計画】

【利活用エリア】

再編・再整備を行う公共施設の規模や機能等を踏まえ、既存の校舎B棟及びプール等は解体して、旧青葉小学校用地を「改修エリア」と「新築エリア」に分けて、施設整備を行います。

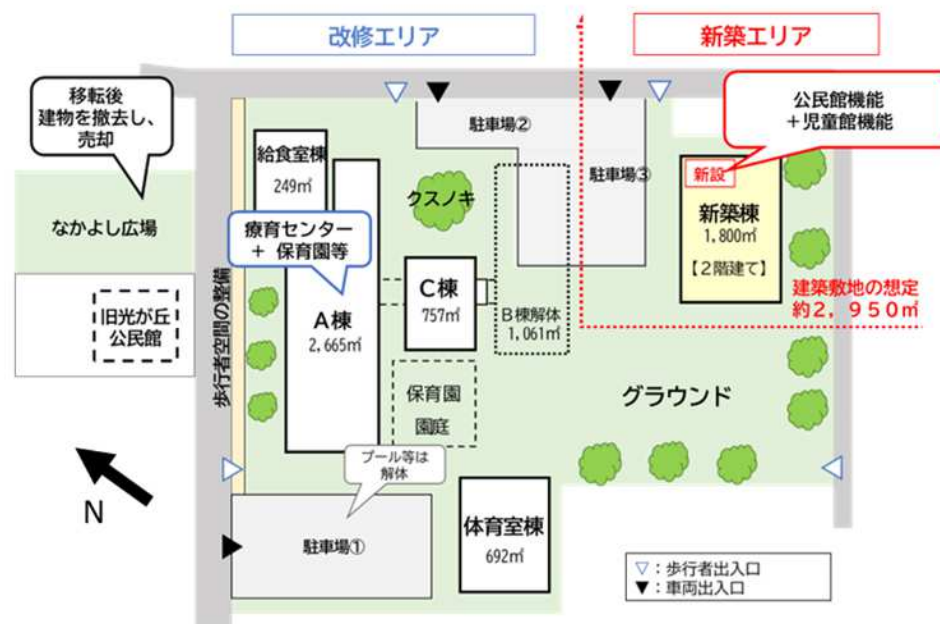
【売却エリア】

再編後に発生する未利用資産（光が丘公民館、なかよし広場、陽光園、陽光台保育園の敷地）は、旧青葉小学校跡地の新施設整備に多額の費用がかかることが見込まれることから、公共施設の保全・利活用基本指針に則り売却により事業の財源として活用します。

■ 旧青葉小学校の概略図



■ 土地利用計画（案）



IV. 整備計画 新築エリア【新築棟（児童館・公民館）】

【基本的な考え方】

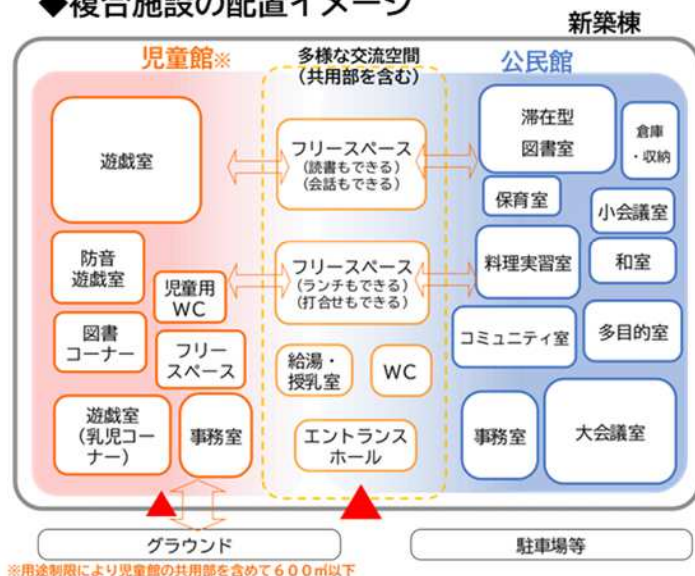
- ◆『各機能の目的を尊重しつつ、時代のニーズに合った空間』
これまでの公民館利用者や児童館利用者也利用しやすくします。
- ◆『子ども・若者と地域の人々が交流し、緩やかにつながることができる共有の空間』
新たな事業やコミュニケーションを誘発します。
- ◆『乳幼児から高齢者までが気軽に立ち寄り、交流しやすい空間』
新たな利用者を獲得することで活性化を図ります。
- ◆『隣接する保育園・療育センター利用者との連携しやすい空間』
保護者等の居場所となることも期待します。

【導入機能及び施設規模】

導入機能は、類似機能を整理し、公民館機能と児童館機能とします。施設の規模は延床面積1,800㎡を目安に整備し、導入規模や関係法令等による制限を踏まえつつ、効果的・効率的な規模とするため、敷地規模を3,000㎡以下に設定します。

また、各機能の規模は、光が丘公民館、市内の児童館の平均的な規模を目安とします。

◆複合施設の配置イメージ



【必要諸室】

◆公民館機能

主な諸室名	主な用途等
滞在型図書室	学習や読書ができるスペース、読み聞かせコーナー等を備え、居心地よく感じられる場を確保
保育室	公民館利用者の子どもを保育するための部屋
事務室	公民館、地区連、社協職員の執務室
給湯、授乳室	子どもの利用が増加するため、授乳室を設置
大会議室	各種会議などに利用。放送室の撤去や可動式ステージの配置等により、有効面積の拡大を図る。
小会議室	少人数の打ち合わせや学習活動に利用
コミュニティ室	会議や音楽活動などに利用。防音性能を向上
多目的室	会議やダンス、体操などに利用（下足）。防音性能を向上し、鏡を設置
料理実習室	調理活動や、子ども食堂の事業などの場として利用。調理台は現状どおり壁付けとすることや、フリースペースと可動式間仕切りで仕切ることにより、多目的な利用に配慮します。
和室	畳が必要な活動に利用（下足）
フリースペース	予約なしでの簡単な打合せや、料理実習室に隣接した箇所は子ども食堂でのランチスペースなどに利用できる場

◆児童館機能

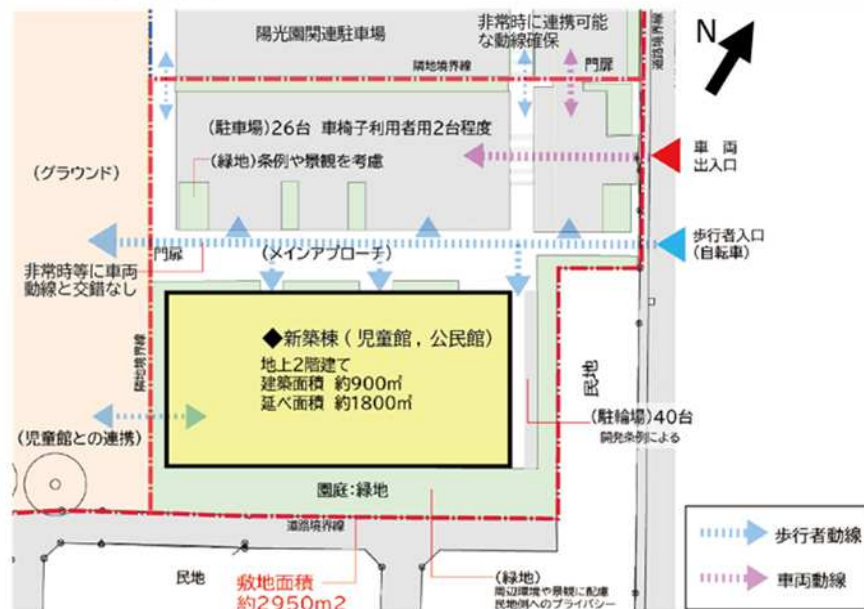
主な諸室名	主な用途等
遊戯室	児童等の遊戯スペース
遊戯室	乳幼児遊戯室として配置
図書コーナー	遊戯室に近接して配置し、館内で閲覧する幼児書等を配架
防音遊戯室	日中は思いっきり大声を出ることができる遊戯室として利用。音楽活動の場として専用貸出し
フリースペース	児童が予約なしで勉強や読書などに使うことができる場
事務室	児童館職員の執務室

【新築棟の整備方針】

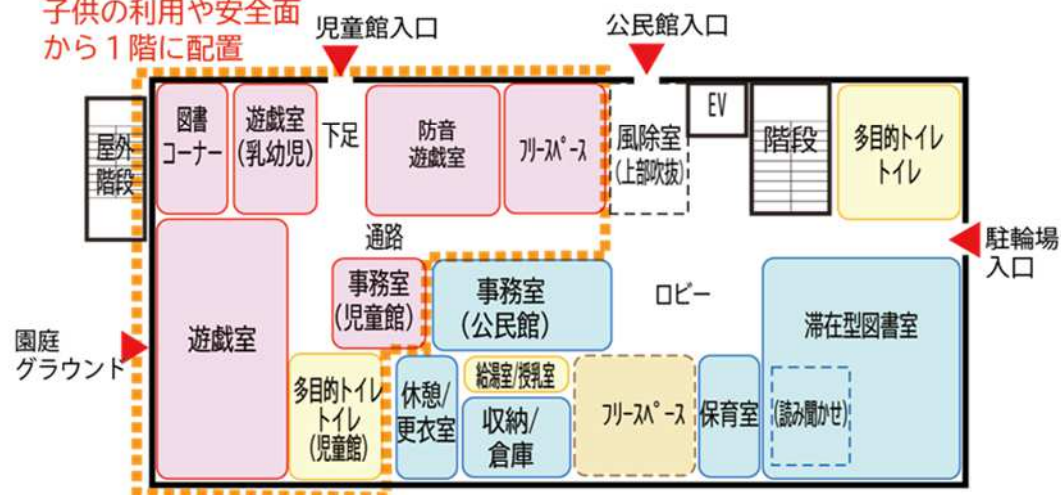
- ◆児童館機能の各諸室や公民館機能の滞在型図書室、フリースペースなどを1階に配置し、多世代の方が集まって賑わいが生まれるような空間とします。2階は主に公民館機能の団地で利用する各諸室やフリースペースで構成し、利用上の区分にも配慮します。

建築計画	公民館の機能及び児童館の機能を十分に踏まえ、誰もが利用しやすいよう施設のバリアフリーやセキュリティ（管理区分）等に配慮します。
配置計画	周辺施設との連携に配慮し、緑化や景観に配慮します。
構造	建築基準法等に適合する規格、安全性を確保します。
設備	省エネルギー化をするとともにＺＥＢ化を目指します。

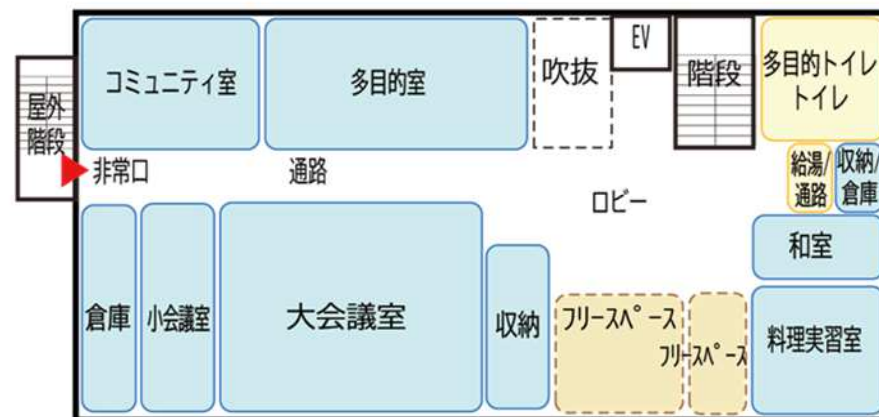
◆配置計画



破線範囲：児童館
子供の利用や安全面
から1階に配置



1F モデルプラン (案)



2F モデルプラン（案）

平面計画作成に向けた方向性（案）

■ 現施設における課題

- 光が丘公民館が抱える課題
 - ・ 担い手不足
 - ・ 利用者の減少
 - ・ 利用者の固定化
- 青葉児童館が抱える課題
 - ・ 利用者が少ない（特に乳幼児、中高生）
 - ・ 子どもの意見を反映した運営

■ 新築棟整備に向けて整理すべき事項

- 公民館と児童館の一体感がある施設
- 現在の光が丘公民館で実施している子ども・若者向け事業や親子向け事業と児童館事業の整理（読み聞かせ、子育てほっとサロン 等）
- 使い方のイメージが具体化できていないフリースペースの位置づけ
- 子どもからシニア世代まで居心地のよい施設とするための整備



■ 取組の方向性

- 施設の供用部としての役割を担う公民館フリースペース等に子ども・若者からシニア世代まで施設に来やすくするために居場所を整備
- 公民館と児童館の連携による事業の拡充や子ども・若者が地域サークルに参加しやすくなるための整備
- 公民館と児童館の一体感がある施設
- 公民館と児童館の子ども・若者対象事業の連携
- 開放的な共用部（ロビー、フリースペース）の整備

平面計画作成に向けた方向性（案）

新築棟の整備内容のイメージをより具体的にするため、次の方向性に基づき検討を進めます。

■ 公民館と児童館の一体感がある施設とします。

施設全体で子どもの居場所を創出するため、事務室の配置や、児童館利用者が公民館側へ気軽に移動しやすい動線の工夫など、一体感がある施設とします。

■ ロビーやフリースペースを開放的な空間として整備を行います。

賑わいがある公共施設の整備事例を参考に、施設の中心的な位置づけとなる新築棟ロビーやフリースペースを開放的な空間となるような整備を行います。

■ 1階のフリースペースを1か所に集約し、子ども・若者からシニア世代まで居心地の良い空間設計にします。

新築棟の1階に配置のフリースペースは1か所に集約し、子ども・若者からシニア世代まで、誰もが気軽に利用できる、居心地のよい空間づくりをします。

■ 2階のフリースペースを子ども・若者が気軽に利用できる工夫をします。

新築棟の2階に配置のフリースペースについて、子ども食堂での利用や子どもの居場所とすることを想定し、子ども・若者も利用しやすい設えとすることで、子ども・若者が気軽に公民館に利用できる空間づくりをします（ゆるやかな交流空間とするため、利用者の制限は設けない）。

■ 公民館貸室の見える化をします。

公民館利用サークル等の活用の様子を見学できるようにするため、貸室については、共用部に面する部分に窓を設けることで、室内の活動の様子の見える設えとします。